

anthis Nexus D850

取扱説明書 [ハウジング本体編] V1.4

このたびは、当社製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

ご使用前に本書 [ハウジング本体編] 並びに別冊子 [カメラ編] をよくお読みいただき十分で理解のうえ、Nexus ハウジングを安全に正しくお使いください。お読みになったあとも、大切に保管してください。

カメラをハウジングにセットしたら、水中で使用される前に必ず、全ての操作部が確実に操作できることを確認してください。

取扱説明書で使用している画像やイラストは、実際の製品とは異なる場合があります。

a n t h i s

目 次

セッティングの基本

撮影前のレンズの準備	本体 1
ピックアップファインダーについて	本体 2
・ピックアップレンズカメラ側の取り付け	本体 2
・視度調節	本体 3
ポートの準備と取り付け・取り外し	本体 4
ハウジングの準備	本体 5～8

補足説明

NSS-N について	本体 9～10
2モードギアの取り扱いについて	本体 11
カバーギアホルダーの使い方	本体 12
表示シールについて	本体 13
ストラップリングについて	本体 13

安全にお使いいただくために

ご使用前の確認とリークテスト	本体 14
取り扱い上の注意	本体 15～17
Oリングの取り扱い	本体 18～19
ボディ Oリングの交換と点検方法	本体 20～22

ご使用後のメンテナンスについて

ご使用後の取り扱いと保管	本体 23
修理・点検を依頼される場合について	本体 23

本製品は、Nikon D850 を収容できる防水耐圧ハウジングで、水深 75m までの圧力に耐えられます。

レンズによる選択

<単焦点レンズ>

オートフォーカス（AF）レンズを

- オートフォーカスで使用される場合はフォーカスギアは必要ありません。
- マニュアルフォーカス（MF）で使用される場合はレンズにフォーカスギアを取り付けます。

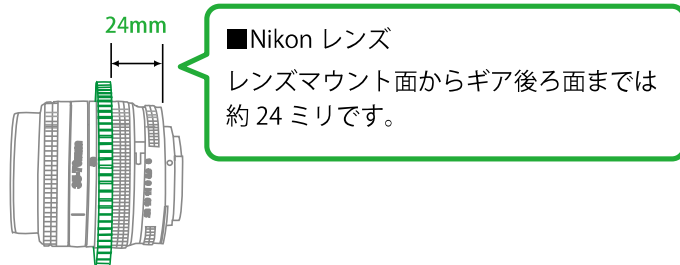
<AF ズームレンズ>

レンズにはズームギアを取り付けます。

ズーム操作はズームギアによりできますが、フォーカスはオートフォーカスでご使用ください。一部ワイドマルチポートで、マニュアルフォーカスが可能なレンズもあります。

ギアの取り付け

1. レンズにフォーカスギアまたはズームギアを取り付けます。



2. ギアの取り付けについては、ギアの取扱説明書をご覧ください。
3. レンズをカメラに取り付けます。

ピックアップファインダーについて

<機能>

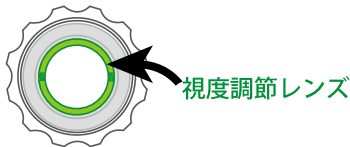
ファインダー像を縮小し、全視野を確認しやすくなっています。
倍率は約0.7倍です。モニターウインドに組込まれたファインダーボディとカメラの接眼窓に取り付けるピックアップレンズカメラ側の2分割構造です。ファインダーボディにねじ込んだ視度調節レンズを回して+2度の補正ができます。

<使用上の注意>

ピックアップレンズカメラ側がないとファインダー内が見えません。
セッティング時には忘れずに、カメラに取り付けてください。
ピックアップレンズカメラ側は補給パーツの販売もあります。
品名：PUR-C 品番：13257 価格：¥2,000（税別）

<ピックアップレンズカメラ側がない時の対処>

ファインダーボディにねじ込まれている、視度調節レンズを反時計回りに回して、取り外してください。ファインダー像はノーマルの状態ですが、見ることはできます。

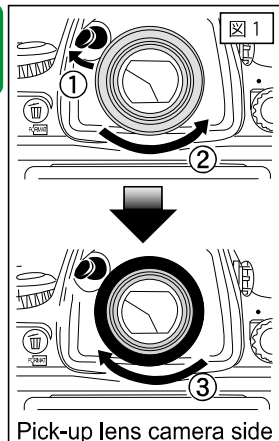


ピックアップレンズカメラ側の取り付け

Nexus 45°あるいはストレートファインダーを使用される場合は、必要ありません。

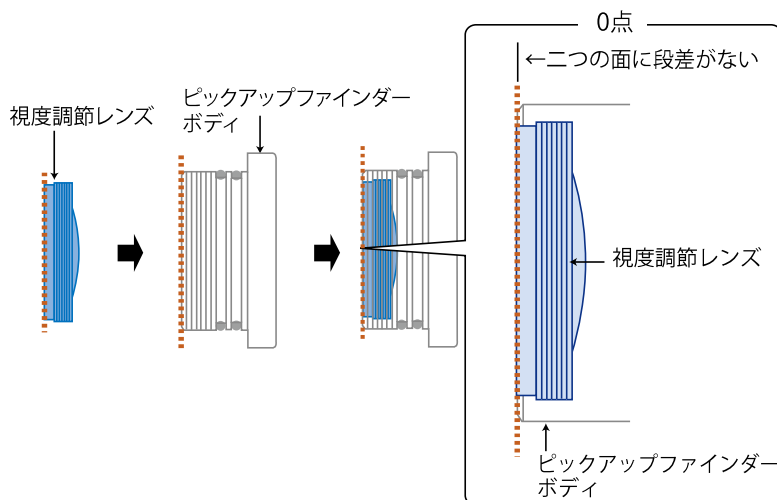
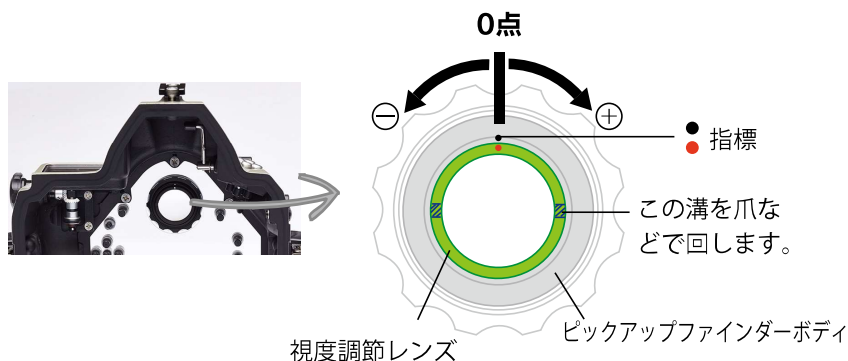
1. アイピースを取り外します。☞図-1
アイピースシャッターを閉じてロックを解除し(①)、アイピースを②の方向に回して取り外します。
2. アイピースを取り外した接眼窓に③ピックアップレンズカメラ側を取り付けます。
本ピックアップファインダーは、視度調節機能付きです。撮影前にファインダー内が鮮明に見えるように調節してください。

☞本書 P3





視度調節

- 2-1 ピックアップファインダーボディにねじ込んだ視度調節レンズを回して調節します。0点より2回転（高低差1mm）で1度の補正となります。補正範囲は±2度までです。
- 2-2 ファインダーボディに視度調節レンズをねじ込んで、二つの面に段差がなく、指標の合うところが0点です。ご購入時の状態です。撮影前にファインダー内がはっきり見えるように調節してください。



追加情報／サポート

-  視度調節レンズには脱落防止のカラーがついていますが、レンズを強く押すと脱落することがありますので、ご注意ください。万一脱落した場合は、弊社で対処します。ご連絡ください。
-  +2に調節してもはっきり見えない場合は、ご相談ください。

1 ポート基差点検

- 1-1 ベースOリング、Oリング溝、ネジ部の点検をします。☞図1

ゴミ、ホコリ、砂などの異物の付着Oリングの傷、割れ、ねじれを点検してください。Oリングについての異物は微量でも浸水の原因となります。

▶P 本書 18__Oリングの取り扱い参照



図1

- 1-2 ポートのネジ、ベースOリング、ベースOリング接触面にグリスを薄く塗ります。☞図-2

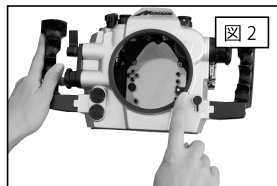


図2

2 ポート取り付け

- 2-1 ネジを合わせ、ポートの根元付近を持って時計回りに締めます。

ポートのOリングが、接触面にあたりはじめると抵抗があります。

そこからさらに約35~45度、回します。

これを締め付け角度の目安として確実に取り付けてください。☞図-3



図3

注意 ノブ付きポートのノブを持って着脱はしないでください。根元から破損して重大な事故になります。

Oリングは、Oリング接触面と接触し、均等で途切れのないつぶし代により防水します。以下のような場合には、防水機能を失い重大な事故につながるおそれがあります。

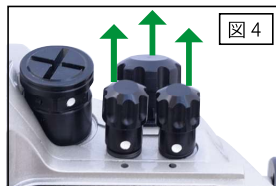
- 締め付け角度が不足する。→Oリングの摩耗、変形など
- 締め付け角度がない→Oリングの脱落、外径の大きいフィッシュアイポートの場合は、ポートマウント横のTスライドベースとの干渉など原因を調べ、取り除いてください。

3 ポート取り外し

- 3-1 ハウジングをしっかりと支え、ポートを反時計回りに回してください。

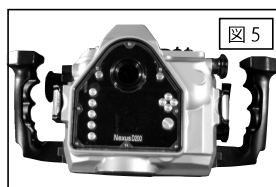
4 リアボディを開ける

- 4-1 電源スイッチ、ISO ノブ、露出補正ノブを引き上げます。☞図-4



ボディの開閉時には、カメラが入っていないでも行ってください。
ノブが下がっていると、内部のアームがカメラに干渉します。

- 4-2 安定した所にポート先端を下にして置きます。☞図-5



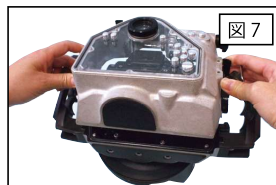
- 4-3 リアボディのラッチを左右同時に開きます。☞図-6



ラッチを片側だけ開けた場合、もう一方のバックロックにより、リアボディがはね上がり、Oリング接触面を傷つけることがあります。

ラッチのバネによりグリップとの間に指が挟まれることがあります。少し浮き上がった状態で、指の位置を変え挟まれないように注意してください。

- 4-4 フックを外し、リアボディをそのまま持ち上げます。☞図-7



リアボディはOリング接触面を上にして安定した所に置いてください。



Oリング接触面を下にして置くとゴミ、ホコリ、砂などが付着します。また、防水に致命的な傷が付くこともあります。

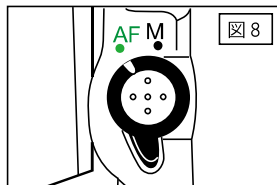
5 カメラのセット

カメラをセットする際は、電源を OFF にしてください。

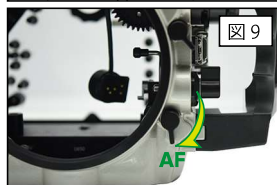


フォーカスモードセクターは、位置合わせをしないと、操作ができない。カメラブロックの破損。ダイヤルとブロックが接触してカメラが正しい位置に納まらない。などの不具合が起こります。

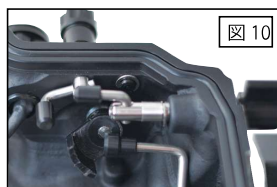
5-1 カメラのフォーカスモードセクターを AF に合わせます。☞図-8



5-2 ハウジングのフォーカスモードセクターレバーを AF に合わせます。☞図-9



5-3 フロントボディ内部の部品がカメラ取付け時に邪魔にならないようにします。シャッター、動画撮影、ISO、露出補正等のアームを挟み込まないように注意してください。☞図-10



5-5 カメラを入れます。
レンズに注意しながらゆっくり入れます。
☞図-11



5-6 三脚ネジ穴にカメラホルドスクリューを合わせます。

5-7 カメラを固定します。
カメラホルドスクリーンを時計回りに回します。☞図-12



完全に固定する前に、①フォーカスノブを回し、ギアはかみ合ってスムーズに動くか②フォーカスモードセレクトレバー③レンズリリースレバーはスムーズに動くかを確認してください。



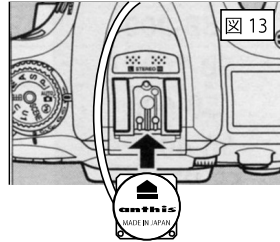
ネジがスムーズに合わない場合は、カメラが正しい位置にありません。フォーカスモードセレクターの位置合わせ、2モードギアの設定や、シャッターアーム、動画撮影アームなどを挟み込んでいないか確認してください。

- 5-8 NSS-N カメラコネクタをアクセサリシューに接続します。カメラに手を添え、シューの奥まで確実に差し込みます。

☞ 図-13



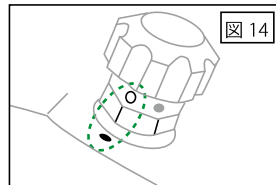
ケーブルを持って引っ張ると、無理な力が加わり、断線する場合があります。



ケーブルは自然な形でカメラにはわせ、立ち上がる状態は避けてください。リアボディを閉めた際にケーブルを挟み込み、ボディ合わせ面にすき間を発生させることがあります。

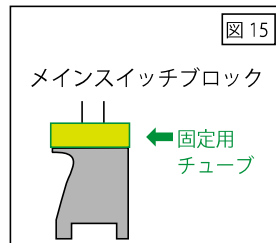
- 5-9 カメラの電源が OFF になっていることを確認して、電源スイッチノブの白印をフロントボディの指標 (●) に合わせ下げます。☞ 図-14

ノブを回して「橙印」を指標に合わせると、カメラの電源が ON になります。「白印」を指標に合わせると、OFF になります。ノブを操作して、電源の ON/OFF を確認してください。



電源 OFF：黒／白
ON：黒／橙

※メインスイッチブロックには、ゆるまないように固定用のチューブが取り付けられています。ブロックのネジを触る必要がある場合は、チューブをめくってください。

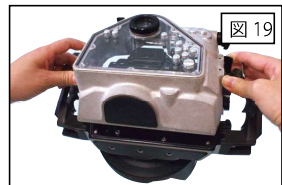
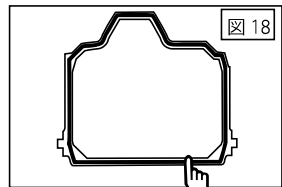
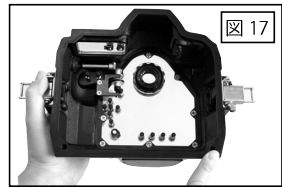
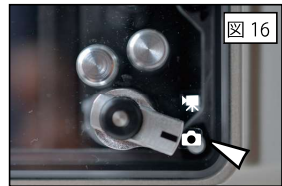


6 リアボディを閉める

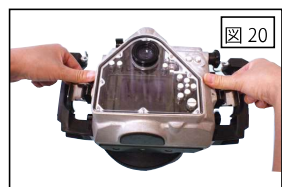


ライブビューセレクトは、予め位置を合わせておかないと、**①**水中で操作ができません。位置合わせをしないでリアボディを閉めると、操作ができないだけでなく、**②**ブロックの破損、**③**干渉によるすき間の発生等の不具合を起こす原因となります。

- 6-1 ライブビュー切替えボタンの指標をカメラの設定に合わせます。☞図-16
- 6-2 ストラップ取り付けの、三角リングを上向きにします。D850 は、三角リングの黒い保護用カバーを外してください。
- 6-3 リアボディのOリング接触面に傷やゴミ、ホコリ、砂など異物が付着していないか点検します。☞図-17
- 6-4 フロントボディのOリングにゴミ、ホコリ、砂など異物の付着や傷、割れ、ねじれがないか点検します。
- 6-5 ボディOリングにグリスを薄く均等に塗ります。☞図-18
- 6-6 リアボディのピン穴をフロントボディのノックピンに合わせて置きます。リアボディが持ち上がっていないか、合わせ面を一周確認してください。☞図-19



すき間のある状態で閉めないでください。防水機能が失われ大変危険です。干渉を引き起こすアームやブロックの位置合わせを確実に行ってください。NSS-N カメラコネクタケーブルを挟み込んでいないかの確認も重要です。



- 6-7 ラッチをフックにかけ、左右同時に引き上げます。☞図-20

NSS-N について

●機能

電気接続 2 灯と光接続が 2 灯同時に使用できます。

【電気接続とは】

- カメラと外部ストロボをニコノス 5 ピン対応の電気ケーブルで接続します。メインソケットは、i-TTL 調光対応のストロボでは、TTL 自動調光が可能です。これ以外のストロボは X 同調のみ可能です。サブソケットは、X 同調のみ可能です。

【光接続とは】

- カメラと外部ストロボを光ケーブルで接続します。X 同調のみ可能です。ストロボの TTL 自動調光は使用できません。

【作動について】

本システムは光信号対応ストロボ、ニコノス型 5 ピン対応ストロボ全機種に対して正常な作動を保証するものではありません。ご使用前に、ご自身で作動確認を行ってください。

●取扱い上のご注意

- NSS-N カメラコネクターやシンクロコードの着脱時は必ずカメラの電源を OFF にしてください。
- 基板に水滴がかからないように注意してください。ボディの壁を伝って付着する海水にも注意が必要です。故障の原因となります。
- 基板に水滴が見えた場合は、すぐにエアで吹き払ってください。作動に異常が生じていなければ、塩分を取り除くため、同量の真水をかけ吹き払うことをおすすめします。その後、弊社での点検をおすすめします。
- 誤って基板に水滴がかかった場合は、ダメージの拡大を防ぐために電池を抜いてください。

【故障かな?と思ったら】

- 電気接続
 - ソケット内への水滴落下により、端子の腐蝕による接触不良⇒端子の汚れを綿棒等できれいに拭き取る。
- 光接続
 - 光ケーブルの断線、先端折れ曲がり、ひび割れ、曇り
 - 光ケーブルの断面がきれいに切断されているか。⇒よく切れるカッター等で真っすぐに切断する。ニッパー等での切断は不可。断面が不揃いのため精度が落ちる。
 - 電池残量が十分か確認⇒電池電圧 2.9V 以上を推奨。

- 光ケーブルが一番奥まで入っているか。
- 光ケーブル差込み口の防水レンズの汚れ→ケーブルアダプタを外し濡らした綿棒等で拭き取る。
- LED と光ケーブルの芯にずれがないか→光ソケット内部のLED が中心に収まっているか。ガタがある場合は修正が必要です。

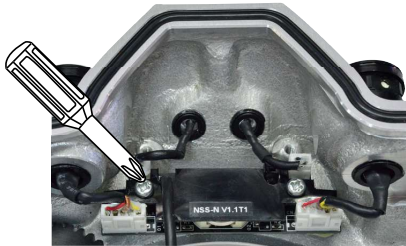
●電池について

- 使用できる電池 3V のコイン型リチウム電池 (CR-1632)
- 電池寿命 使い方や条件によって異なりますが、およその目安は 5000 シャッターです。

ご購入時に組込まれておりますのは、モニター用の電池です。記載された電池寿命に満たないうちに切れることがあります。電池のスペアを携帯することをおすすめします。光接続を使う予定がない場合は、無駄な消費を防ぐため、あらかじめ電池を抜いておくことをおすすめします。

●電池交換手順

1. 防滴カバーの十文字穴つきネジを、プラスドライバー2番 (No.2) ではずします。



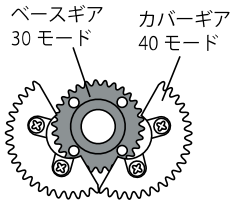
防滴カバー



2. 電池の⊕⊖を間違えないように交換します。
3. 防滴カバーを戻し、ネジを締めます。

2モードギアの取り扱いについて

Nexus D850 に採用されている『2モードギア』は 30 モードのベースギアに 40 モードのカバーギアが装着されています。カバーギアはネジで固定されており、着脱することができます。



大口径レンズは、セッティング時にボディ内部に干渉する、フォーカスギアの径も大きい、などの理由から、ご使用時にはハウジング側のフォーカスイドラギアのモードを変える必要があります。

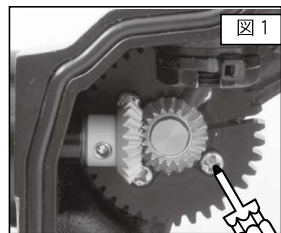
詳しくは使用されるギア及び、ポートの取扱説明書を参照してください。

※ご購入時は標準の 40 モードに設定されています。

AF-S VR Micro-Nikkor ED 105mm F2.8 などの大口径レンズを使用するには：
カバーギアを取外し 30 モードに設定します。

ノブを回しながらネジを外し、カバーギアを取外します。☞ 図 1

外したカバーギアは紛失しないように保管してください。標準的なレンズを使用する際に必要です。



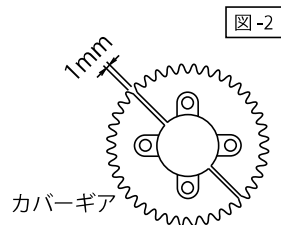
磁気対応のネジを使用しています。

ベースプレートの裏面にカバーギアホルダーを備えている機種は、ホルダーに取付けて保管されることをおすすめします。

☞ 本書 P12 カバーギアホルダーの使い方

標準的なレンズを使用するには：
カバーギアを取付け 40 モードに設定します

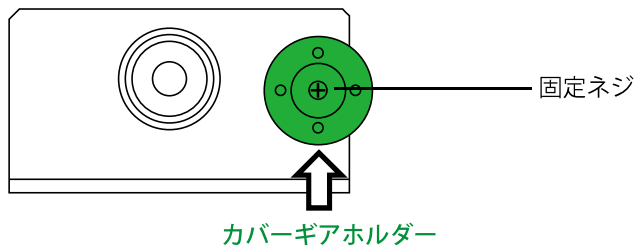
切断面のすき間が均等になるように取り付けてください。☞ 図 2



カバーギアホルダーの使い方

- 必要な時にすぐ使えるように、外したカバーギアを逆の手順でホルダーに取付け保管します。
- 一旦ホルダーをベースプレートから外して、カバーギア取付け後、元に戻す方法もあります。
- 本体内のスペースの都合上、カバーギアホルダーのないモデルもあります。

ベースプレート裏面



表示シールについて

汎用タイプで、シール面が内側用と外側用があります。各操作部やボタンの名称に合わせて貼ってください。

👉 表示シール使用例



👉 左肩ボタンシール使用例



ストラップリングについて

- ストラップリングは、必要に応じてグリップのストラップベースに取付けてください。
- フル装備を想定したものではありません。重い物を装着すると切れやすいのでご注意ください。



作動確認

- ハウジングの各操作部が正常に操作できるか確認します。
- 本製品の作動確認は当社基準カメラに基づきます。万一作動に差し障りな点がございましたら、アンティス サービスへご相談ください。

撮影準備

- ストロボの発光テストをおすすめします。
- 各機能のリセットはいかがでしょうか。
- 電池の残量は十分ですか。

リークテスト

耐圧防水性能の確認テストです。移動、運搬時に起こりやすい破損や、セット変更時のミスなど、さまざまなリスクから大切なカメラやレンズを守ります。

● リークテストはどのような場合に行うのか？

- 初めて使用する時
- 前回の使用から長期間ご使用にならなかった時
- 航空機での運搬後
- 長距離での運搬後
- 高低差のある移動後
- ポートの着脱交換後
- Oリングの着脱交換後

● リークテストはどのようにして行うのか？

カメラ、レンズを外した状態でハウジングを撮影予定の水深まで持って行き、水漏れなどの異常がないか確かめます。

ハウジング

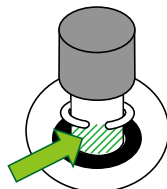
- 防水はOリング、フロントボディのOリング溝、リアボディのOリング接触面により機能し、それぞれが重要な働きをしています。
※P本書 18「Oリングの取り扱い」をよくお読みください。
- ボディ、ポートの各Oリングは不用意に外さないでください。
ボディOリングを交換する時は確実にセットし、必ずリークテストを行ってください。
※P本書 14「リークテスト」をよくお読みください。
- リアボディは確実にフロントボディノックピンに合わせてください。
ボディ前後のずれ、リアボディの浮き上がりがなければ確認してから左右同時にラッチを閉めてください。
- リアボディのOリング接触面やフロントボディのポートOリング接触面の傷には注意してください。傷の修復は困難な場合があります。
- 炎天下の車内および高温になる場所や直射日光のあたる所に放置しないでください。カメラやハウジングの故障原因になります。
- 大きな外力（落下、衝撃、強い振動など）を加えないでください。
- 海辺など、潮風のあたる場所での開閉はできるだけ避けてください。
- 水分が十分に乾いていない時にメモリーカード、バッテリー交換などで開ける場合は、ハウジングの周りを真水で洗い、水分を十分拭き取りポートを下にして開けてください。水分が残っていると、開口部とOリングのすき間にある水滴がカメラや基板にかかることがあります。
- 雨天の屋外など湿気が多い所でハウジングを開閉したり、水中撮影時と温度差のある所では結露現象が起こり、ポートレンズやファインダーレンズが曇ることがあります。

ボタン

操作部のグリスは徐々に消失していきます。これに伴い動きも重くなります。このような場合には、グリスを補充するとスムーズに動くようになります。

ボタンのグリスアップ

- 1) ボタンを押して軸の周りにグリスを塗ります。
※つまようじ等を利用すると便利です。
- 2) ボタンを数回押してグリスをなじませます。



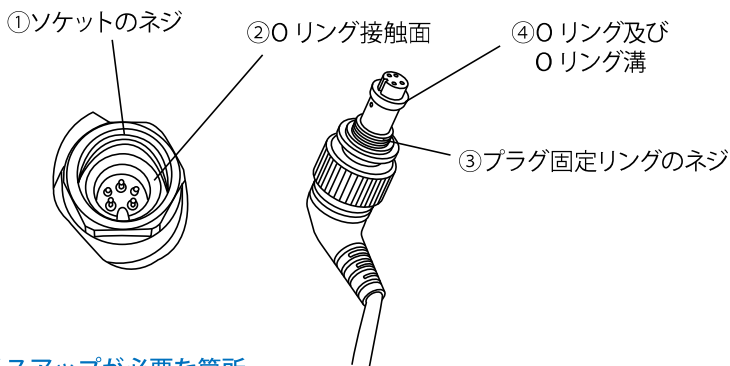
Eクリップより下の斜線部分です

電気ソケット

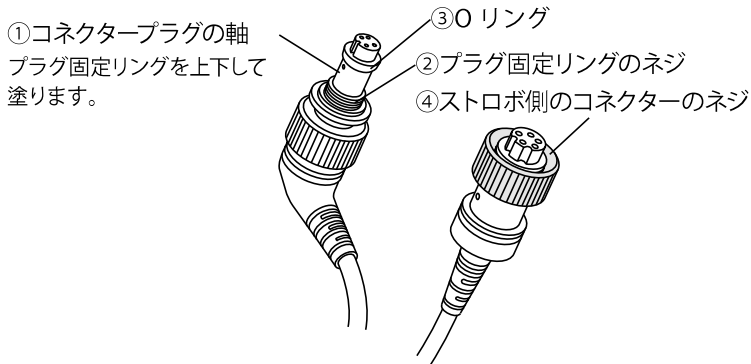
- 海からあがった直後など良く乾かない状態でストロボのシンクロコードを外すと水滴がシンクロソケット内に落ちることがあります。落下した水滴は短時間でシンクロ端子を腐食させ接触不良を起こします。万一水滴が落ちた場合は速やかに拭き取ってください。
 - シンクロコードを外す際は、よく乾燥させてから行うか、接触部分の水分をタオルなどでよく拭いた後にハウジングを横向きか逆さにして行ってください。水滴の落下を防ぎます。
 - ソケット内への水、ゴミの侵入を防ぐために、シンクロコードを接続する時以外はシンクロキャップで保護してください。
 - 使用しないソケットは、シンクロキャップのネジにグリスをしっかりと塗ってください。キャップがはずれなくなることがあります。
- ※以下の箇所をクリーニング及びグリスアップすると、とシンクロコードが固着しにくくなります。

注意 ⚠️ ゴム系以外のOリングが組まれているシンクロコードは、接続する前に、他のグリスが接触しないようにソケット内部のグリスをきれいに拭き取り、グリスアップの際も専用のグリスを使用してください。

●クリーニングが必要な箇所



●グリスアップが必要な箇所



ポート

- ハウジングに取り付ける前にOリングだけでなく、ネジにもグリスを塗ってください。
- 露出したネジやOリングはとても傷つきやすいのでポートキャップリア（別売品）で保護してください。
- プラスチック製のポートは、高温下で保管したり長時間日光にさらされたような場合、若干ではありますが膨張する傾向にありますので、お気を付けください。

水中撮影

- 初めて使う時や長時間ご使用にならなかった時には、リークテストを行ってください。
- 潜行を始める前に浅い所で各操作部が正常に作動するか確認してください。

運搬

- 運搬の際には、機材同士がぶつかり合ったり、振動や衝撃を加えないでください。
- ハウジングは耐圧容器です。内部圧力の上昇には耐えられません。航空機などでの運搬時には、ポートは外してください。ボディキャップ（別売品）のご使用をおすすめします。
- 落としたり、ぶつかけたりして強い衝撃が加わった場合には、外観に異常が見られない時でも弊社サービス部で点検を受けられることをおすすめします。
- カメラはハウジングから外して、運搬されることをおすすめします。
- 外付けのビューファインダーや長いアームのような突起物は、輸送中に課題な力を受けると、ハウジング本体へのダメージ、変形などの原因となります。外して運搬されることをおすすめします。

もし水漏れが起きたら

- 内部に水滴が見えたり、異常に気が付いた場合は撮影を中止し、カメラを水平に保ち、できるだけ早く水から上げてください。
- 浮上時には浮上スピードに気を付け、減圧時間を守ってください。カメラ、ハウジングを速やかに買い上げの販売店へお持ちください。

Oリングの交換時期

- ボディ、ポートのOリングは、傷がなくても変形や摩耗により防水性能はおちてきます。
長くても1～2年を目安に交換してください。(約100ダイブ)
- 可動部のOリングの耐久性は、取り扱い及び使用頻度により異なりますが、年ごとの可動部Oリング交換、3年ごと(約200ダイブ)の全Oリング交換をおすすめします。
- ご自身でOリング交換をされた場合は、必ずリークテストを行ってください。▶本書P14_リークテスト参照
- 弊社サービス部でも承っています。
メニューの一例です。詳しくはアンティスホームページ
<http://www.anthis.co.jp> から「サービス情報」をご覧ください。

	交換時期目安	内容	預り日数預
オーバーホールA	100ダイブ もしくは 1～2年使用	可動部分解点検、調整、 可動部Oリング交換、 シンクロ点検、ボタングリスアップ、内部清掃、 耐圧検査	約2～3 週間
オーバーホールB	200ダイブ もしくは 3年使用	全分解精密検査、全Oリング交換、シンクロ点検、 ボタングリスアップ、 内部清掃、耐圧検査	約2～3 週間

ボディリングとは

- ハウジングの防水はリングが重要な役目を果たし、そのセット状態が防水性能を大きく左右します。
- 不完全なセットは浸水、水没の原因となります。通常のお手入れとして不用意にはずさないでください。

ボディリングの交換

- ボディリングの交換及び着脱をご自分でされる場合は、以下の交換、点検方法に従って確実に行ってください。
- 交換に不安を感じられた場合は弊社、プロショップ、販売店にご依頼ください。

外す前に

P 本書 21 の「ボディリングの点検方法」をお読みになり、現在のリングの状態を点検します。

交換手順



注意
リング溝を傷付けしないでください。

1. リングとリング溝とのすき間にプラスチックカード（または丸いヘラ）を入れ、リングを引き出します。



注意
ゴミ、ほこりは防水機能を損ないます。

2. リング溝にゴミやほこりが付着していないか点検します。付着している場合は、綿棒等で取り除きます。

3. 交換用リングに傷やほこりが付着していないか確認します。ほこりがある場合は取り除きます。傷がある場合は使用しないでください。



注意
グリスは塗り過ぎやムラがないようにしてください。

4. 指先でリングの表面にグリスを薄く塗ります。

5. リングを取り付けます。
リングのあたりが均等になるように入れるにはコツがあります。
▶P 本書 22 「ボディリングの取り付け方」を参照してください。

6. リングの取り付けが正しいか、セット状態を点検します。
▶本書 21 「ボディリングの点検方法」を参照してください。

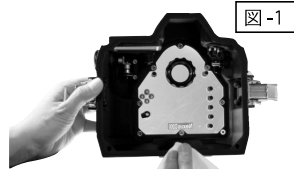
ボディリングの点検方法

❖用意するもの

○リンググリス、弱い揮発性溶剤、ガーゼ等拭き取るもの

※揮発性溶剤の例：ベンジン、アクリル塗料溶剤など

1. リアボディリング接触面に付いているグリスを揮発性溶剤を含ませたガーゼ等できれいに拭き取り、乾かします。



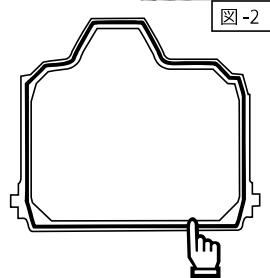
揮発性溶剤は、グリスの油分を取り除くために使います。強いものはボディを痛めますので、使用しないでください。

2. ボディリングにグリスを薄く均等に塗ります。☞図-2



グリスの塗り過ぎやムラがないようにしてください。

○リングのあたり具合が正確に確認できません。

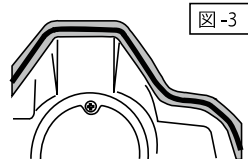


3. ラッチを一度閉めてから開けます。
4. ○リングのセット状態が○リング接触面に転写されます。その状態を点検します。

☞図-3

- a) 途切れていないか。
- b) 広い、狭いなど幅に不揃いはないか。

5. 幅の不揃いや途切れがある場合は、大変危険です。水面直下での浸水や、重大な事故を起こす可能性があります。均等になるまで繰り返しセットし直してください。

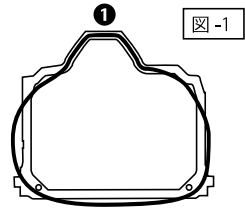


以上は大変重要です。確実に行ってください。
ご不明な点はお問い合わせください。

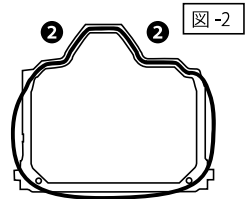
ボディリングの取り付け方

リング溝にゴミやほこり、リングの傷などがないことを確認してから行ってください。

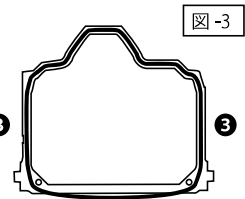
1. 上部は詰めて入れます。☞図-1



2. 両肩に入れます。☞図-2
左右どちらからでもかまいません。

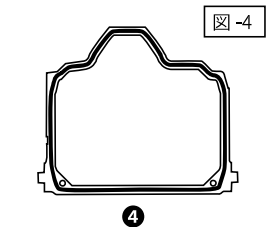


3. 側面の溝に少し伸ばしぎみに入れます。
☞図-3



4. 下辺に入れます。☞図-4

5. リングのねじれを点検後、指先で全体の凹凸をならします。



6. リングの取り付けが正しいか、セット状態の点検をします。



本書 P19 のボディリングの点検方法を参照してください。

取り付けのポイント

下記の内容をふまえた上で取り付けをしてください。

- 伸ばして入れれば細く（低く）なります。逆に詰めて入れれば太く（高く）なります。
- 上部はラッチから遠いので、余裕を持たせ詰めて入れます。
- ハウジングの両側面（縦）はラッチに近いので、あたりが平均して強く（広く）なるため、少し伸ばしぎみに入れてください。
- 下辺はそのままの長さで押し込んでください。

上部や角部はリングがねじれたり、あたりが不均等になりやすいので特に注意してください。

●ご使用後の取り扱い

ご使用後は必ず行ってください。

- 外部に付着しているゴミ、砂、塩分などを取り除くために、真水に十分浸してから、流水ですき間に残った砂、塩分を洗い落としてください。
海中で使用したまま放置しておく、各操作部に塩分などが固着し、作動不良や腐食を起こします。
- 直射日光があたらない、風通しのよい場所で乾かしてください。
- Oリングの点検およびグリスアップをしてください。

●保管に関するご注意

完全に乾いた状態で行ってください。

- カメラ、レンズ、ポートは取り外してください。
ポートのネジ部は、ポートキャップリア（別売品）などで保護してください。
- ハウジング内に乾燥剤を入れ、Oリング接触面はボディキャップ（別売品）で保護してください。
- ボディOリングは不用意に外さないでください。
- 直射日光のあたらない、風通しのよい乾燥した場所を選んでください。
湿気の多い場所やナフタリンや樟腦の入った所に保管しないでください。

●修理／点検を依頼される場合について

- スムーズで確実な対応をさせていただくため、anthis ホームページサービス情報から「修理・サービス依頼書」をダウンロードして、必要事項をご記入のうえ、依頼品に添付してください。
- 故障や浸水などの場合は、できるだけ詳しい状況をお知らせください。
- 依頼品のみで発送をお願いします。関係のないアクセサリ類や他社製品は外しておいてください。
- 輸送中の事故から大切な機材を守るために、送付の際は、梱包に十分な注意をお願いします。ハウジングには、ボディキャップ、ポートには、ポートキャップ、ポートキャップリアで保護されることをおすすめします。
- 外付けのビューファインダーや長いアームのような突起物は、輸送中に過大な力を受けると、ハウジング本体へのダメージ、変形などの原因となります。外してお手元で保管してください。
- 交換パーツの外観、価格、仕様等は予告なしに変更する場合がありますのでご了承ください。

発送先及び、ご不明な点は **anthis サービス部**へ

〒444-2137 愛知県岡崎市数田 1-16-1

TEL：0564-25-3937

受付時間：（月～金）午前 8 時～午後 5 時

チェックしてください

準備はできましたか!大丈夫ですか!
うっかりなんてことはありませんか?
水中に入る前に点検を

□カメラ

- 電池は入っていますか
- 電池の残容量は十分ですか
- メモリーカードは入っていますか
- 撮影可能コマ数は十分ですか
- 各操作部は正しく動きますか

□防水

- OリングとOリング接触面に異物はありませんか
- Oリングのあたりはどうですか
- リアボディにフロントボディをのせ、無理なく閉まりましたか
- 左右のラッチは同時に閉めましたか。また確実に閉まっていますか
- 前後のボディにずれはありませんか

□作動

- 全ての操作部がスムーズに操作できますか

□ポート

- ベースOリングは入っていますか
- Oリングがはみ出ていませんか
- ポートは確実に締まっていますか

□ストロボ

- 正常に作動しますか
- シンクロコードは確実に締まっていますか
- 電池残量は十分ですか

a n t h i s

有限会社 アンティス

〒444-2137 愛知県岡崎市藪田 1-16-1

TEL : 0564-25-3937

FAX : 0564-25-2205

<http://www.anthis.co.jp>

- *改善により仕様および外観の一部を予告なしに変更することがあります。
- *取扱説明書における本文および写真などの無断転載、複製を禁じます。